

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（1年決算型）」は、2022年11月10日に第10期決算を行いました。

当ファンドは、インカム・ゲインの確保と信託財産の成長を目指しており、当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに謹んで当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

第10期末(2022年11月10日)

基準価額	8,780円
------	--------

純資産総額	8,635百万円
-------	----------

第10期

騰落率	△15.2%
-----	--------

分配金(税込み)合計	0円
------------	----

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

(注) 基準価額および分配金は1万口当たりです。(以下同じ)

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、弊社ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページにアクセス

(<https://www.barings.com/ja-jp/individual>)

⇒「投資信託情報」を選択⇒「運用報告書一覧」を選択
⇒当ファンドを選択

BARINGS

交付運用報告書

BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド (1年決算型)

(愛称)ウィンドミル1年

追加型投信/海外/債券

第10期(決算日2022年11月10日)

作成対象期間(2021年11月11日~2022年11月10日)

運用報告書に関する弊社お問い合わせ先

ベアリングス・ジャパン株式会社 営業本部

電話番号: 03-4565-1040

受付時間: 営業日の午前9時から午後5時まで

※お客様の口座内容などに関するご照会は、お申込みされた販売会社にお尋ねください。

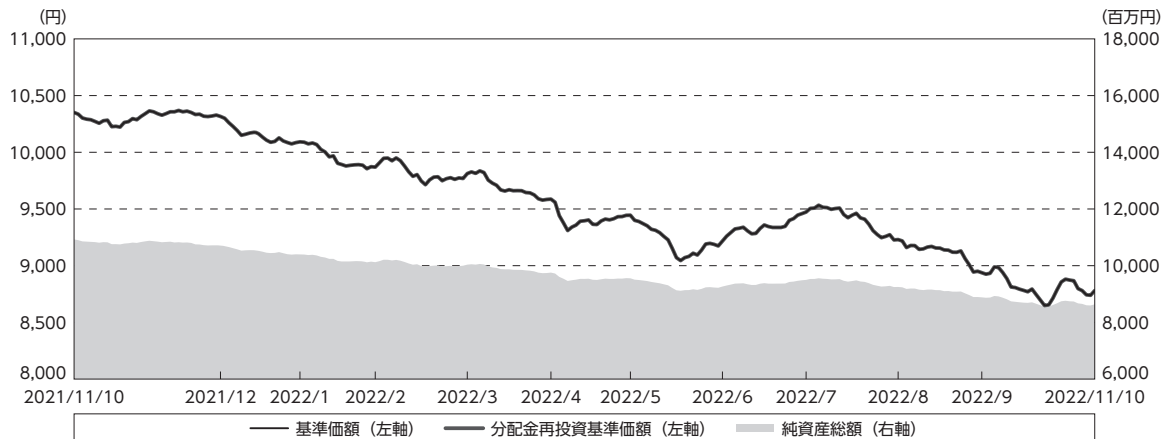
ベアリングス・ジャパン株式会社

東京都中央区京橋二丁目2番1号 京橋エドグラン7階

<https://www.barings.com/ja-jp/individual>

運用経過

期中の基準価額等の推移 (2021年11月11日～2022年11月10日)



期首：10,351円

期末：8,780円 (既払分配金：0円)

騰落率：△15.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2021年11月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。(以下同じ)
- (注) 上記既払分配金は、期中の分配金(税込み)合計額です。

○基準価額の主な変動要因

主要投資対象である「ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド」における期中の基準価額は、13.7%の下落となりました。

上昇要因

- 対円で上昇した米国ドル、カナダドルの買い持ちや、保有債券からの利息収入等が基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

- 世界的に金利が上昇する中、米国やオーストラリアの債券価格が下落したことや、イタリアのドラギ首相の辞任により政局不安が生じたイタリア国債のスプレッド拡大等が基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細（2021年11月11日～2022年11月10日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 153	% 1.595	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	（ 74）	（0.770）	投信会社分は、ファンドの運用、基準価額の算出、法定書類等の作成等の対価
（販売会社）	（ 74）	（0.770）	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（ 5）	（0.055）	受託会社分は、運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.009	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	（ 1）	（0.009）	
(c) その他費用	6	0.060	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	（ 5）	（0.050）	保管費用は、資産を海外で保管する場合の費用
（監査費用）	（ 1）	（0.006）	監査費用は、ファンドの監査にかかる費用
（その他）	（ 0）	（0.004）	信託事務の処理に要する諸費用
合 計	160	1.664	
期中の平均基準価額は、9,594円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。なお、(b) 売買委託手数料および(c) その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注) 信託報酬および監査費用にかかる消費税は期末の税率を採用しています。

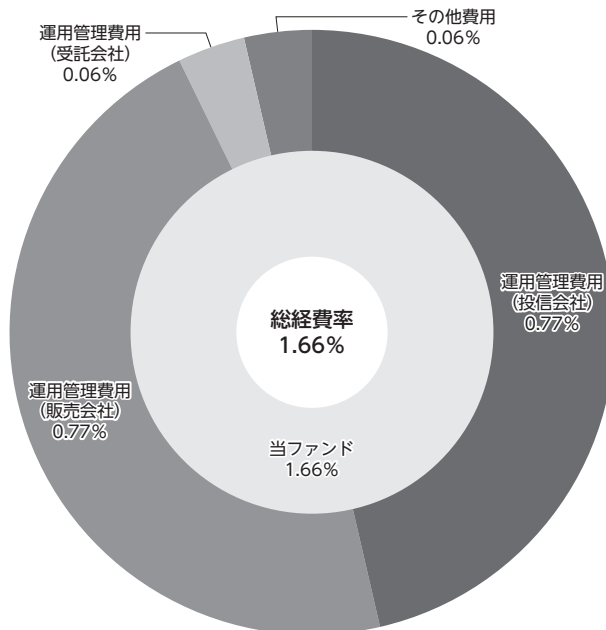
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.66%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移（2017年11月10日～2022年11月10日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2017年11月10日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2017年11月10日 決算日	2018年11月12日 決算日	2019年11月11日 決算日	2020年11月10日 決算日	2021年11月10日 決算日	2022年11月10日 決算日
基準価額(分配落ち) (円)	10,464	10,012	10,807	10,954	10,351	8,780
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△4.3	7.9	1.4	△5.5	△15.2
純資産総額 (百万円)	15,691	14,658	14,935	13,236	10,926	8,635

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■ 投資環境 (2021年11月11日~2022年11月10日)

◎債券市場

当期前半は、原油価格の上昇や米国の雇用環境の改善を背景に米国を中心に利上げ観測が高まる中で、ロシアによるウクライナ侵攻により投資家のリスク回避姿勢が強まり、欧米の長期金利が低下する場面が見られたものの、物価上昇率の加速により、米連邦準備制度理事会（FRB）が大幅な利上げを行う意向を示したほか、欧州中央銀行（ECB）も利上げに前向きな姿勢を見せたことから、欧米の長期金利は大きく上昇しました。

当期後半は、欧米の企業景況感の悪化により欧米の長期金利が一時的に低下しましたが、米国では良好な雇用環境や粘着性の強いインフレ等を背景にFRBが大幅な利上げを継続し、欧州においてもエネルギー価格高騰を主因としたインフレ加速から、ECBが大幅な利上げを行ったことで、欧米の長期金利は大きく上昇しました。また英国では、大規模な減税政策が財政悪化やさらなる物価上昇を招くとの懸念から長期金利は急上昇する場面がありました。その後減税政策が完全に撤回されると上昇幅が縮小しました。

当期の債券市場の動きを10年国債利回りで見ると、米国では当期首の1.55%から当期末3.81%へ上昇、ドイツでは-0.25%から2.01%へ上昇しました。

◎為替市場

為替市場では、米国で大幅な利上げが継続する一方、日銀の金融緩和の継続を背景に日米金利差が拡大したことから、米国ドルは対円で大きく上昇しました。ユーロについては、ウクライナ情勢の緊迫化や域内の景気減速への懸念等から対米国ドルで下落する一方、対円では円が全面安となったため、上昇しました。当期の米国ドル・円相場は、当期首の112円台後半から当期末の146円台半ばへ米国ドル高・円安が進行しました。

当ファンドのポートフォリオ（2021年11月11日～2022年11月10日）

<BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（1年決算型）>

「ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド」を高位に組み入れました。

<ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド>

<デュレーション>

インフレ期待の抑制を優先し、景気減速を甘受する中央銀行の急劇な引き締め姿勢は長期金利の低下を招くと考えました。各国の物価、景気動向、金融政策、長短金利差縮小の余地を慎重に見極めつつ、デュレーション*の調整を行いました。ポートフォリオ全体のデュレーションは、期末時点で約7.9年としました。また、国債先物の売りを実施し、金利変動リスクの機動的な調整を図りました。

<国別配分>

当初は、先進国では、ユーロ圏（周縁国）、オーストラリア、米国、カナダ、新興国では、メキシコ、チェコへの厚めの配分を行いました。期中においては、イタリア等から、カナダ、米国、フランス、オランダ等への入れ替えを実施しました。また、ユーロ圏の長期ゾーンやオーストラリアの短期ゾーンの配分減を実行する一方で、カナダの超長期ゾーンやオーストラリアの長期ゾーンの配分増を実行しました。物価上昇への対応として、米国、イタリア、フランス、メキシコの物価連動国債の組み入れを開始しました。またカナダやオーストラリアにおいて、利回り面での投資妙味が高い地方債の配分増を実施しました。新興国では、2022年7月に信用格付けが引き下げられたメキシコや期中の金利低下局面を捉えてチェコの配分を削減し、期末時点では、新興国への配分は抑制し、相対的に利回りの高いメキシコ中心の厳選配分としました。

<通貨別配分>

当期の円ウェイトは、円安が過度に進行したと判断し、期中では80%台から90%台に引き上げるなどの機動的な配分変更を行いつつ、期末時点では約92%程度としました。円以外の通貨では、英ポンドをほぼ中立から売り持ちに転換、ニュージーランドドル、カナダドルの買い持ち幅を縮小する一方、イスラエルシェケル、オーストラリアドルをほぼ中立から買い持ちに転換し、期末時点では米国ドル、ノルウェークローネ、イスラエルシェケル等を買持ち、英ポンド、ユーロ等売り持ちとしました。新興国通貨では、チェココルナの買い持ち幅を縮小、ポーランドズロチを買持ちからほぼ中立に転換し、新興国通貨全体のエクスポージャーはネットではほぼ中立としました。

*「金利変動に対する債券価格の感応度」を示すもので、デュレーションが大きいほど、金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

【組入債券の種別構成】

期末（2022年11月10日現在）

No.	種 別	比率 (%)
1	国債証券	52.6
2	地方債証券	30.8
3	特殊債券	12.7
4	普通社債券	1.5

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

【組入債券の通貨別構成上位5通貨】

期末（2022年11月10日現在）

No.	通 貨	比率 (%)
1	米ドル	20.2
2	ユーロ	14.3
3	オーストラリアドル	20.0
4	カナダドル	18.5
5	ニュージーランドドル	11.1

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

【組入債券の上位5銘柄】

期末（2022年11月10日現在）

No.	銘柄名	クーポン (%)	償還日	国 (地域)	比率 (%)
1	オーストラリア・クイーンズランド州財務公社債	6.5	2033年3月14日	オーストラリア	4.4
2	ニュージーランド国債	2.75	2037年4月15日	ニュージーランド	4.1
3	オーストラリア国債	3.75	2037年4月21日	オーストラリア	3.2
4	イスラエル国債	5.5	2042年1月31日	イスラエル	3.1
5	ハイドロ・ケベック電力債	9.375	2030年4月15日	カナダ	3.0

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

■ 当ファンドのベンチマークとの差異（2021年11月11日～2022年11月10日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

分配金（2021年11月11日～2022年11月10日）

基準価額の水準および市況動向等を勘案して収益分配は行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第10期
	2021年11月11日～ 2022年11月10日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,728

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。小数点以下第4位を四捨五入して表示しています。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨で算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（1年決算型）>

引き続き、「ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド」を高位に組入れて運用を行います。

<ベアリングワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド>

各国の中央銀行がインフレ抑制を優先させる中で、短期金利はインフレ鈍化が顕現化するまで上昇する一方、長期金利は先行きの景気悪化を織り込む形で低下圧力に晒されると想定します。また、過度な利上げによって景気後退やインフレ鈍化が鮮明となる国では、市場の利下げ織り込みが開始されると予想します。このため各国の物価・景気動向、および金融・財政政策の違いを見極めた上での国別配分、満期構成を実行するとともに、地方債等の非国債への分散投資を施し、収益獲得を目指す方針です。

国別では、各国の長短金利差や金融政策等を睨んだ満期構成戦略を実施し、ドイツ、米国、カナダ等では債券先物を使用し、金利リスクの最適配分を目指します。

通貨配分については、ポートフォリオの対円での為替ヘッジ比率は、75%～100%でコントロールする方針とし、円高が予想される局面ではヘッジ比率を引き上げ、円安が予想される局面ではヘッジ比率の引き下げを検討します。円以外の通貨の主要なポジションとしては、インフレ抑制に向けて積極的な利上げが見込まれる米国ドルや欧州向けの原油や天然ガスの輸出拡大の恩恵を受けやすいノルウェークローネやイスラエルシェケル等の買い持ちポジションを維持し、金利戦略とのバランスを図る方針とします。

お知らせ

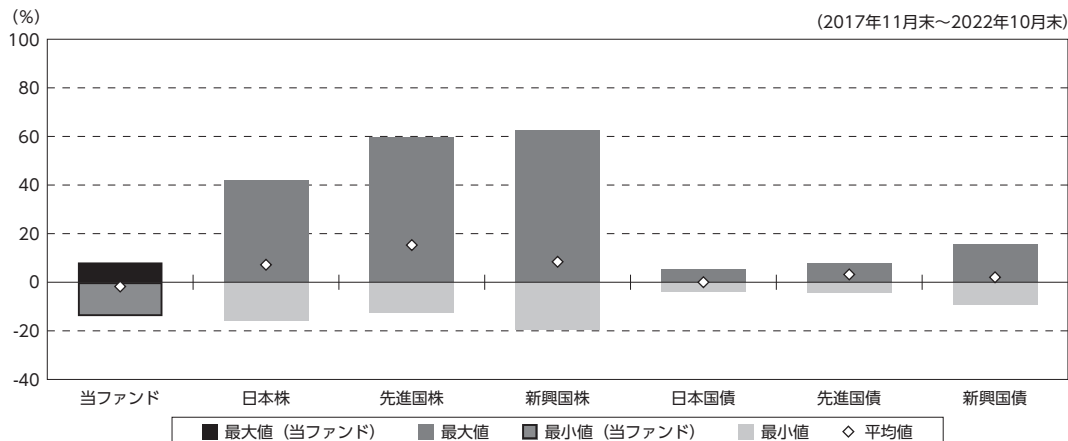
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券	
信 託 期 間	信託期間は2013年10月21日から2023年11月10日までです。クローズド期間はありません。 なお、受益者に有利であると認めるときは、受託者と協議のうえ、信託期間を延長することができます。	
運 用 方 針	ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド受益証券に投資を行い、インカム・ゲインの確保とともに信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。	
主 要 投 資 対 象	B A M ワールド・ボンド & カレンシー・ファンド（1年決算型）	ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	ベアリング ワールド・ボンド & カレンシー・マザーファンド	世界の投資適格格付けの公社債を主要投資対象とします。
運 用 方 法	<p>①主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、以下の方針に基づき行います。</p> <p>a) 世界の投資適格格付けの公社債に分散投資を行い、インカム・ゲインの確保と信託財産の長期的な成長を目指します。ただし、投資適格の格付けを得ていない場合でも、投資適格債に相当すると判断した場合は投資を行うことがあります。</p> <p>b) 為替変動リスクのヘッジ目的および円ベースでの投資収益の確保を目的として、外国為替の予約取引を機動的に行います。</p> <p>c) 信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、先物取引を行うことができます。</p> <p>d) 公社債の組入比率は、原則として高位に維持することを基本とします。</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、高位に維持することを基本とします。</p> <p>③マザーファンドの運用にあたっては、ベアリング・アセット・マネジメント・リミテッド（英国法人）に運用の管理及び執行に関する権限を委託しています。</p>	
分 配 方 針	毎年1回決算（原則として11月10日。ただし、休業日の場合は翌営業日。）を行い、経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、基準価額水準、市況動向等を勘案するとともに、信託財産の成長にも留意し、委託会社が分配金額を決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	8.1	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	15.7
最小値	△13.9	△16.0	△12.4	△19.4	△3.7	△4.5	△9.4
平均値	△1.8	7.2	15.3	8.4	0.0	3.2	2.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2017年11月から2022年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額の年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディパーシファイド（円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

(注) 詳細は最終ページをご参照下さい。

当ファンドのデータ

組入資産の内容 (2022年11月10日現在)

○組入上位ファンド

ファンド名	第10期末
	%
ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド	100.9
組入銘柄数	1 銘柄

(注) 組入比率は純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

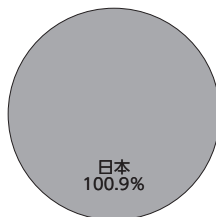
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

(注) 計理処理上、組入比率が100%を超える場合があります。(以下同じ)

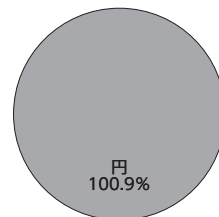
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しています。

純資産等

項 目	第10期末
	2022年11月10日
純資産総額	8,635,935,282円
受益権総口数	9,836,448,775口
1万口当たり基準価額	8,780円

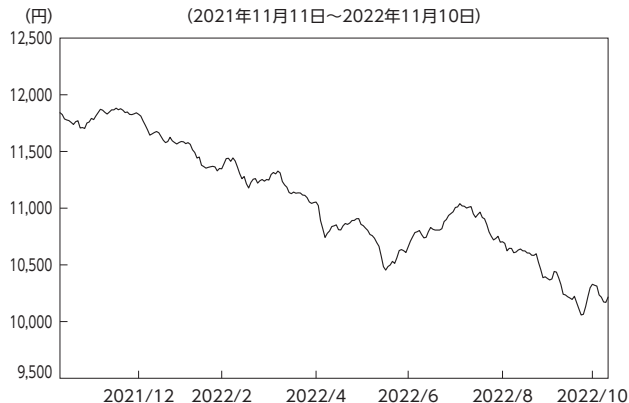
* 期中における追加設定元本額は689,936,368円、同解約元本額は1,409,871,954円です。

組入上位ファンドの概要

ベアリング ワールド・ボンド&カレンシー・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2021年11月11日～2022年11月10日)



【1万口当たりの費用明細】

(2021年11月11日～2022年11月10日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	1 (1)	0.009 (0.009)
(b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	6 (5)	0.053 (0.049)
(そ の 他)	(0)	(0.004)
合 計	7	0.062

期中の平均基準価額は、11,068円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

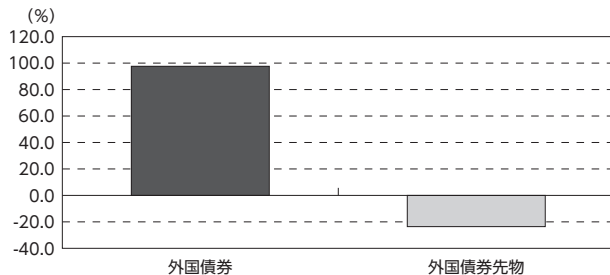
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

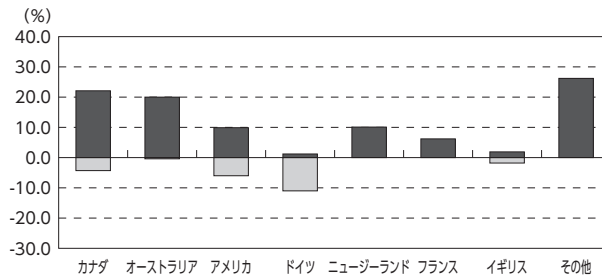
	銘 柄 名	業種/種別等	通貨	国 (地域)	比率
					%
1	オーストラリア・クイーンズランド州財務公社債 6.5% 2033/3/14	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.4
2	ニュージーランド国債 2.75% 2037/4/15	国債証券	ニュージーランドドル	ニュージーランド	4.1
3	オーストラリア国債 3.75% 2037/4/21	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	3.2
4	イスラエル国債 5.5% 2042/1/31	国債証券	イスラエルシェケル	イスラエル	3.1
5	ハイドロ・ケベック電力債 9.375% 2030/4/15	特殊債券	米ドル	カナダ	3.0
6	オーストラリア・ニューサウス・ウェールズ州財務公社債 1.5% 2032/2/20	地方債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	2.8
7	ハイドロ・ケベック電力債 9.5% 2030/11/15	特殊債券	米ドル	カナダ	2.6
8	カナダ・ケベック州政府債 5.75% 2036/12/1	地方債証券	カナダドル	カナダ	2.4
9	フランス国債 4% 2038/10/25	国債証券	ユーロ	フランス	2.2
10	米国国債 1.125% 2040/5/15	国債証券	米ドル	アメリカ	2.1
	組入銘柄数			95銘柄	

(注) 組入上位10銘柄には債券現物のみを記載しています。
債券先物取引については、運用報告書（全体版）をご参照ください。

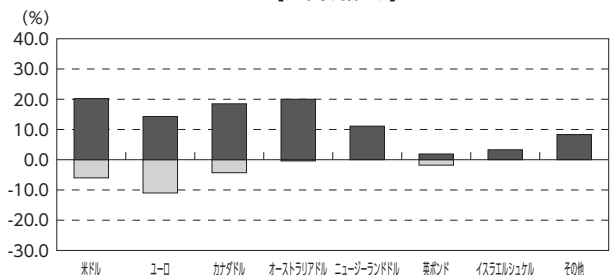
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2022年11月10日現在のものです。
- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
- (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しています。
- (注) 組入上位10銘柄の国（地域）および国別配分につきましては発行国ベースです。
- (注) 通貨別配分は組入債券にかかる通貨別構成比です。

○代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数

日本株－東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株－MSCI－KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株－MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債－NOMURA－BPI国債

先進国債－FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債－JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

MSCI－KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

NOMURA－BPI国債

野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA－BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。